

団体別会議で話し合われたこと

	課題	今後できそうな支援（網掛け部分はその職種ならではの支援）
医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満であること。痩せることで膝の改善及びモチベーションの向上に繋がる可能性があるのでは。 ・ジムに通っているが、風呂にしか入っていない。もっとジムの活用を。 ・要支援2なので「甘え」があるのでは。介護区分変更の際には、適切な区分になるように判断する必要がある。 ・整形外科の主治医がいない。 ・外部の人との接点も大切にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとまずは食事療法等でやせることが優先。栄養士も関与しては。 ・ジム利用の際、トレーナーの指導を受けたり、プールで運動してみても。 ・場合によっては、2週間程でも教育入院するものひとつの手段では。 ・認定区分を下げて、自立を促す。 ・整形外科の主治医を決めて、介護度を考え直す。 ・認知症カフェのボランティアなどを通して、何か役割を持ってもらうなどして、外出機会を増やす。
薬剤師会	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿コントロールができていないか。糖尿病から皮膚病にかかっている可能性もある。 ・食事の管理出来ているか。 ・整形外科が未受診であること。 ・体重過多で痛みにつながっている。痛みをコントロール出来れば、生活レベルが上がるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚科の先生にも糖尿病であることを伝える。 ・糖尿病食の検討が必要では。 ・整形外科にかかるよう、薬剤師が声掛けできる。リハの提案も。 ・
訪問看護ステーション 保健センター	<ul style="list-style-type: none"> ・手術後にもかかわらず 整形外科につながっていない。 ・病気や健康状態、介護度とも悪化要因だらけだが、本人は危機感を持っていないのでは。 ・今のままではいけないと、どう気付けてもらうか。 ・本人意向により何とかできていること、やりたいことが持続実現できるようにと願うが、現状では、いつ悪化の転機を迎えてもおかしくない現状。 ・転倒しやすい要因を減らし、自らががんばろうと思って取り組める生活変化にどう介入するかが課題。 ・口の渇きも気がかり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは整形外科受診につなげる。 本人が最も信頼する主治医（内科？皮膚科？歯科？）から指示書がもらえれば 訪看 ST は介入可。 ・訪看 ST（Ns、PT、OT）関われば、主治医の指示のもと、病気の悪化や介護状態悪化させない療養生活支援（服薬管理、食事栄養管理、リハビリ介入、予防介入）ができる。 ・体操に通っている人に誘ってもらうなど、ご近所へも働きかける。
居宅事業所 連絡会 ケアマネ ジャー協会	<ul style="list-style-type: none"> ・術後2カ月だが痛みがあるため、近くの整形外科で受診して、かかりつけ医を検討する必要があるのでは。 ・体重が重く、膝の痛みにつながっている。 ・活動量は多いが、その運動が体に負担をかけていないか評価する必要あり。 ・運動を継続したい気持ちがあるのか。 ・水虫も歩行の支障に関係しているのでは。 ・水虫の人が入浴しても良いのか。 ・小柄で太っていることから、足をきれいに洗うことができているのか。 ・本人が問題意識を持っているのか。 ・口の渇きがあるという点から糖尿病はコントロールできているか？ ・糖尿病の程度が不明。糖尿病を意識した食事が必要（栄養状態の改善）。 ・むし歯があり、口腔ケアの課題をどう評価するか。 ・いき百は運動のために参加するというのは難しいのではないか。交流のために参加するかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの整形外科と一緒に検討する。 ・やる気にさせるためにも、痛み止めを処方してもらい、リハビリ 減量につなげる。 ・糖尿病等も含めた主治医意見により、総合的な検討が必要では。 ・糖尿病の程度について内科医にも助言をもらい、栄養指導を受けられるように繋いでいく。 ・受けたアドバイスに基づき、ジムのトレーナーにきちんとプログラムを作ってもらようよう助言する（本人が自分で伝えられる前提。できなければ支援） ・デイサービスで食生活や筋力指導も可能なので勤めてみる。 ・ヘルパー週2回の支援に足浴なども行ってもらい、清潔保持の機会をもたせる。 ・食材だけを持ってきてもらう宅配サービスを案内する。 ・古新聞出しについては、自治会でフォローできないか。 ・主治医指導のもと、リハビリを活用。自信がついて外出できるようになり、外出先でできた関係で古新聞出し等、支援してもらえそうなことを依頼しては。 ・ライザップを紹介する。 ・基本的には自分でできる人と評価し、やる気をあげるような支援を本人の意向に沿っておこなう必要があるため、本人を知るためアセスメントをもっと深めたい。

団体別会議で話し合われたこと

PT・OT・ST	<ul style="list-style-type: none"> ・体重が重い。栄養指導が必要では。 ・歩行補助具の見直し ・五十肩の原因は右支持足への荷重と考えられる ・痛みのコントロール ・歩行器を使用した際のバスの昇降 ・体操の機会、どのくらい体操をしてもよいか ・水虫（きちんとフットケア出来てるのか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の主治医から紹介して貰い、病院管理栄養士に繋げる。炭水化物・たんぱく質の摂取量のアドバイスを受ける。 ・杖の使い方指導・他の歩行補助具として歩行器の検討もしたい(座れる＝休憩ができる・物を乗せられる)。 ・ショッピングリハを勧めたい。 ・近所の整形外科に受診して、内服薬で疼痛コントロールする。手術した病院から紹介状があれば尚よい。 ・ノンステップバスの運転手に、抵抗なく昇降介助や荷物運びの手伝いをしてもらいたい。 ・身障センター(三反田)でのリハビリ教室を利用する <p>利用条件</p> <p>障害手帳の有無は問わず、支所保健担当で審査。 1年毎に医師の指示書が必要。 医療の個別リハを利用していないこと。 毎週(木)10～12:00 (金)13～15:00</p> <p>内容</p> <p>1時間程度のマット運動に併せてレクリエーションや栄養指導もある。 送迎は市内各地のバス停から身障センターまで直通バス。最寄りのバス停まで移動出来れば送迎バスに乗れる。 リハ専門職の関与で、運動量や運動方法の助言も。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問リハの利用（現在の運動量・初期動作のパワーを測り、生活動作やできる体操をアセスメントする） ・いき百を立ち上げる人たちが周りの人にお誘い、啓発する。 体操の内容ができるかどうか不安ある人には立ち上げの時の市専門職の関与もある。 ・ジムの友達といき百に参加できないか 関係性をまず把握
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報量が足りないこと ・気持ちはあるのに、いき百に行けていない。(関係者からの)気持ちの後押しが足りていないのでは。 ・新聞の廃品回収等、本人が困っていることを地域に発信できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や包括C、ケアマネ等に地域との関わりについて、情報収集出来る。 ・いき百以外の集い場（サロンや地域のもちつき大会）の紹介が出来る。 ・「後押し」という意味では、社協職員が同伴して、いき百等へ連れて行くことも可能。一人でできるようになるまで、出来る限り協力できる。 ・社協の「マッチング機能」により、地域のボランティア等で出来ることと本人のニーズが合えば、繋ぐことも可能。

団体別会議で話し合われたこと

<p>地域包括支援センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体重 70 キロであり、膝への負担及び糖尿悪化が懸念される。 ・ジムに通っているが運動は出来ていない。いきいき百歳体操に行けていないこと。 ・家の中でも壁伝いであり、手すりの利用はあるのか。 ・団地の二階に居住しており、そこに住み続けることができるのか。 ・家族等、人との関係性が不明。 ・他者とのかかわりがある中で寂しさを感じている。 ・何を拠り所にしているかが不明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科からのアドバイス依頼 痛みの程度疾患による動きづらさの程度・福祉用具利用の妥当性。 ・歯科医師からのアドバイス依頼 糖尿病あり、口腔内注視必要。 ・内科医師、栄養士からのアドバイス依頼 居宅療養管理指導の利用。 ・福祉用具や住宅改修の活用提案。住居に関する意向確認。 ・アセスメントを深め、本人の意向を確認する。 <p>寂しさに対して、家族に関して、歯科医はじめどの医院にかかりたいか、何を大事にしているか、これからどのように生活したいかなど。</p>
-------------------	--	---